

2016年度第3四半期決算説明資料

2017年2月14日

SOMPOホールディングス株式会社



目次

業績ハイライト(2016年度第3四半期)	2		
1. 業績動向			
2016年度第3四半期決算概況(連結)	4	2-2. 国内生保事業	
決算のポイント①保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)	5	業績概況(ひまわり生命)	24
決算のポイント②連結経常利益	6	会計利益の推移	25
決算のポイント③連結純利益	7	修正利益・修正純資産(ひまわり生命)	26
(参考)2016年度通期業績予想(連結)	8	2-3. 介護・ヘルスケア事業等	
(参考)通期業績予想(連結経常利益)のブレイクダウン	9	業績概況(介護・ヘルスケア事業等)	27
(参考)経営数値目標等	10	SOMPOケア(介護事業)主要業績	28
2. 事業別概況		2-4. 海外保険事業	
2-1. 国内損保事業		業績概況(海外保険事業)	29
2016年度第3四半期決算概況(損保ジャパン日本興亜)	12	地域別業績	30
正味収入保険料	13	(参考)グループ会社別業績	31
正味損害率(リトン・ペイド)	14	3. ERM・資産運用	
正味事業費率	15	財務健全性	33
コンバインド・レシオ	16	(参考)実質自己資本・リスク量のブレイクダウン	34
資産運用損益	17	(参考)市場変動に対する感応度	35
(参考)資産運用粗利益の内訳	18	資産ポートフォリオ(グループベース)	36
(参考)2016年度通期業績予想(損保ジャパン日本興亜)	19	資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜)	37
(参考)通期業績予想の前提(損保ジャパン日本興亜)	20	資産ポートフォリオ(ひまわり生命)	38
(参考)自動車保険関連の指標	21		
(参考)国内自然災害	22		
(参考)責任準備金・支払備金	23		

業績ハイライト(2016年度第3四半期)

■ 連結純利益・修正連結利益とも国内損保の保険引受利益改善を主因に増益(進捗率は約8割)

● 国内損保

アード・インカード損害率の改善などを主因とした保険引受利益の大幅改善および株式市況の好転を捉えた政策株式売却の進展などにより増益

● 国内生保

医療保険中心に保障性商品の保有は継続拡大、ボトムラインは通期業績予想対比で堅調

● 海外

適正なアンダーライティングや自然災害が限定的であったことなどにより、計画を上回って推移

■ 通期業績予想に変更なし(連結純利益の進捗率は78%)

1. 業績動向

2. 事業別概況

2-1. 国内損保事業

2-2. 国内生保事業

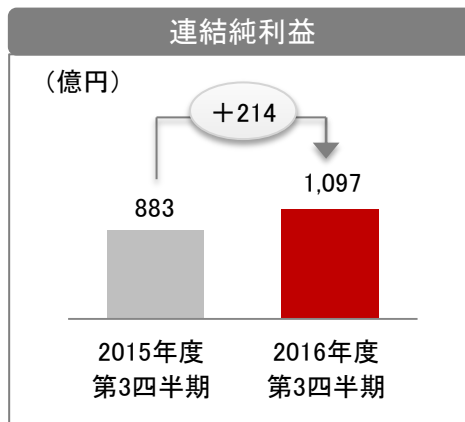
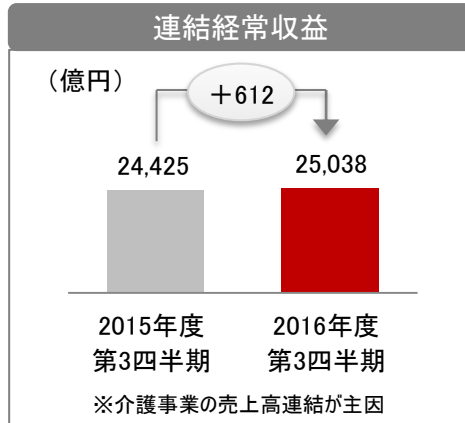
2-3. 介護・ヘルスケア事業等

2-4. 海外保険事業

3. ERM・資産運用

2016年度第3四半期決算概況(連結)

◆ 国内損保事業の増益により、連結経常利益は439億円増益の1,655億円、連結純利益は214億円増益の1,097億円、通期業績予想対比で順調に進捗



(単位:億円)	2015年度 第3四半期	2016年度 第3四半期	増減
連結経常収益	24,425	25,038	+612 (+2.5%)
正味収入保険料	19,394	18,863	△531 (△2.7%)
生命保険料	2,160	2,310	+149 (+6.9%)
連結経常利益	1,215	1,655	+439
損保ジャパン日本興亜	886	1,508	+621
ひまわり生命	152	124	△27
海外グループ会社	160	152	△7
その他・連結調整等※1	16	△130	△147
連結純利益※2	883	1,097	+214
損保ジャパン日本興亜	611	1,026	+415
ひまわり生命	101	81	△20
海外グループ会社	128	129	+0
その他・連結調整等※1	41	△139	△181
(参考)修正利益(事業別)	1,091	1,329	+238
国内損保事業	713	978	+264
国内生保事業	235	222	△12
介護・ヘルスケア事業等	13	△9	△23
海外保険事業	128	138	+9

※1 SOMPOホールディングスの設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。

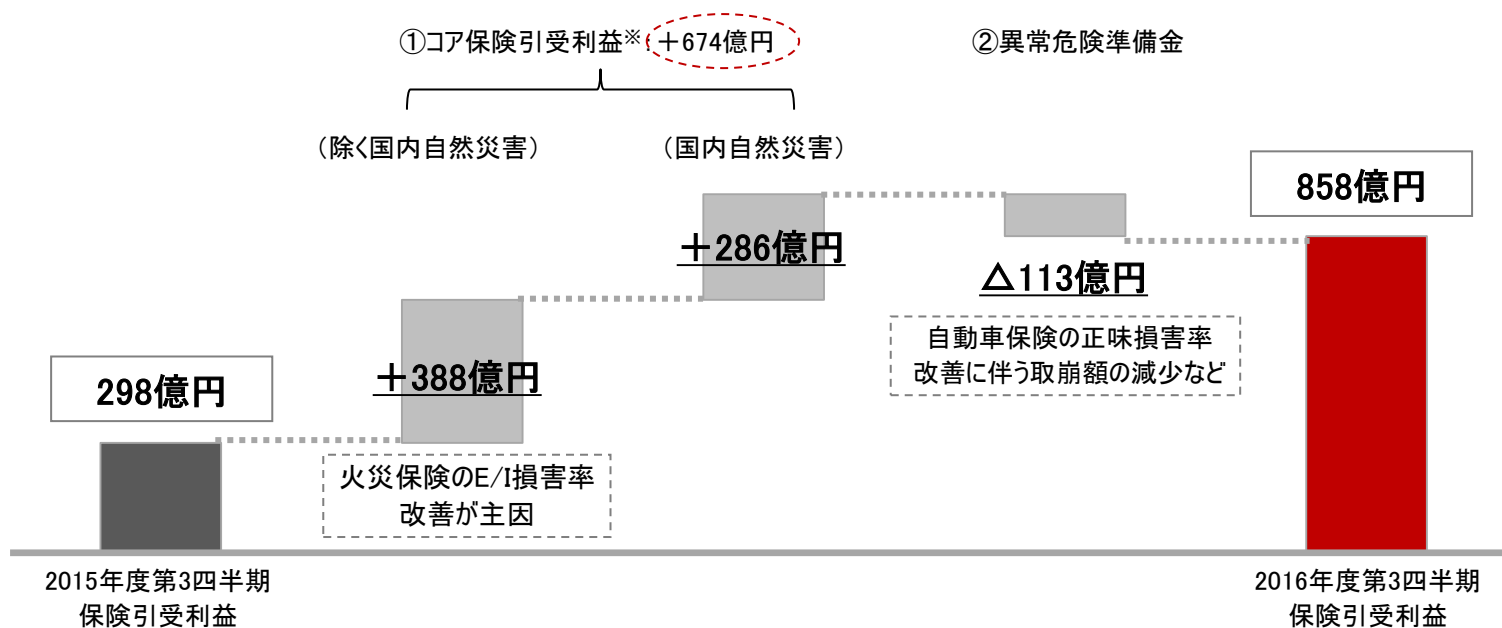
HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(損保ジャパン日本興亜等の単体上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要があるため、この修正を上記「連結調整」に含めている。

※2 連結純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を指す(以下同様)

決算のポイント①保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)

◆ コア保険引受利益の改善を主因に、保険引受利益は560億円増益の858億円

保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)の増減要因



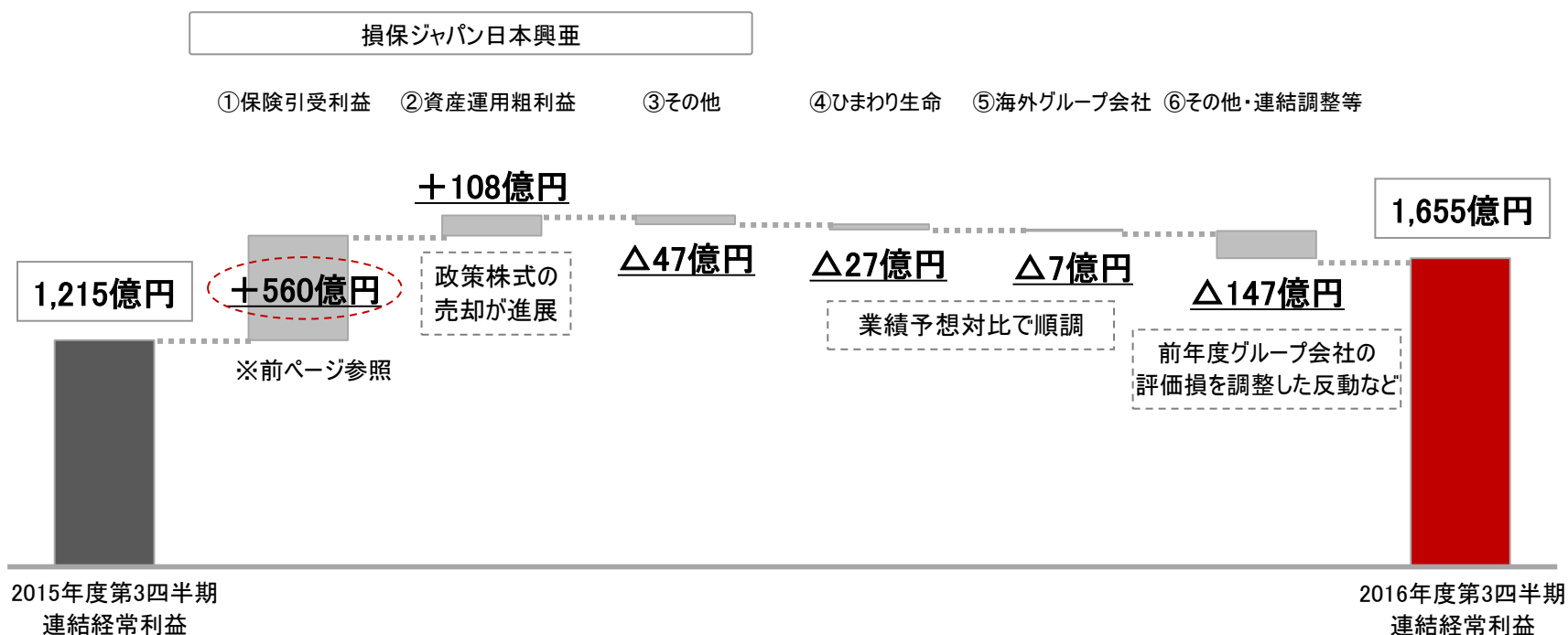
	①コア保険引受利益	②異常危険準備金	保険引受利益
2015年度第3四半期実績	406億円	△108億円	298億円
2016年度第3四半期実績	1,081億円	△222億円	858億円

※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

決算のポイント②連結経常利益

◆ 保険引受利益の拡大を主因に、連結経常利益は439億円増益の1,655億円

連結経常利益の増減要因



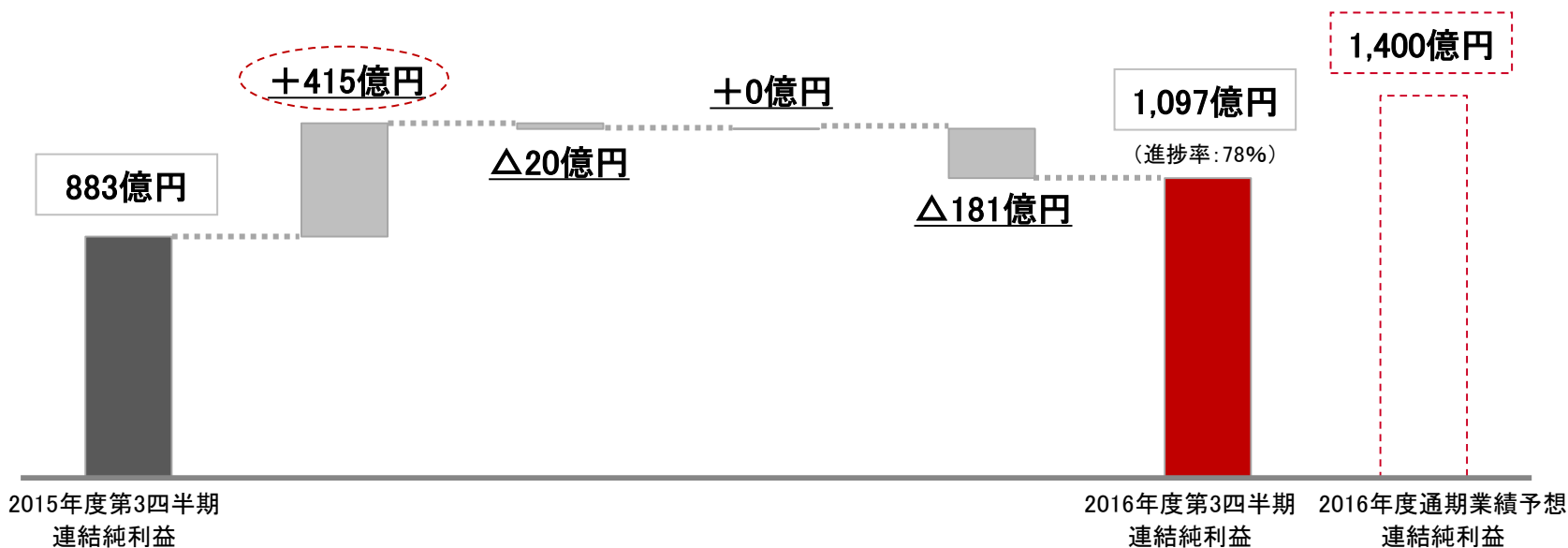
	①保険引受利益	②資産運用粗利益	③その他	④ひまわり生命	⑤海外グループ会社	⑥その他・連結調整等	連結経常利益
2015年度第3四半期実績	298億円	684億円	△95億円	152億円	160億円	16億円	1,215億円
2016年度第3四半期実績	858億円	792億円	△143億円	124億円	152億円	△130億円	1,655億円

決算のポイント③連結純利益

◆ 連結純利益は214億円増益の1,097億円、通期業績予想に対し順調に進捗

連結純利益の増減要因

①損保ジャパン日本興亜 ②ひまわり生命 ③海外グループ会社 ④その他・連結調整等



	①損保ジャパン 日本興亜	②ひまわり生命	③海外 グループ会社	④その他・ 連結調整等	連結純利益
2015年度第3四半期実績	611億円	101億円	128億円	41億円	883億円
2016年度第3四半期実績	1,026億円	81億円	129億円	$\Delta 139$ 億円	1,097億円

(参考)2016年度通期業績予想(連結)

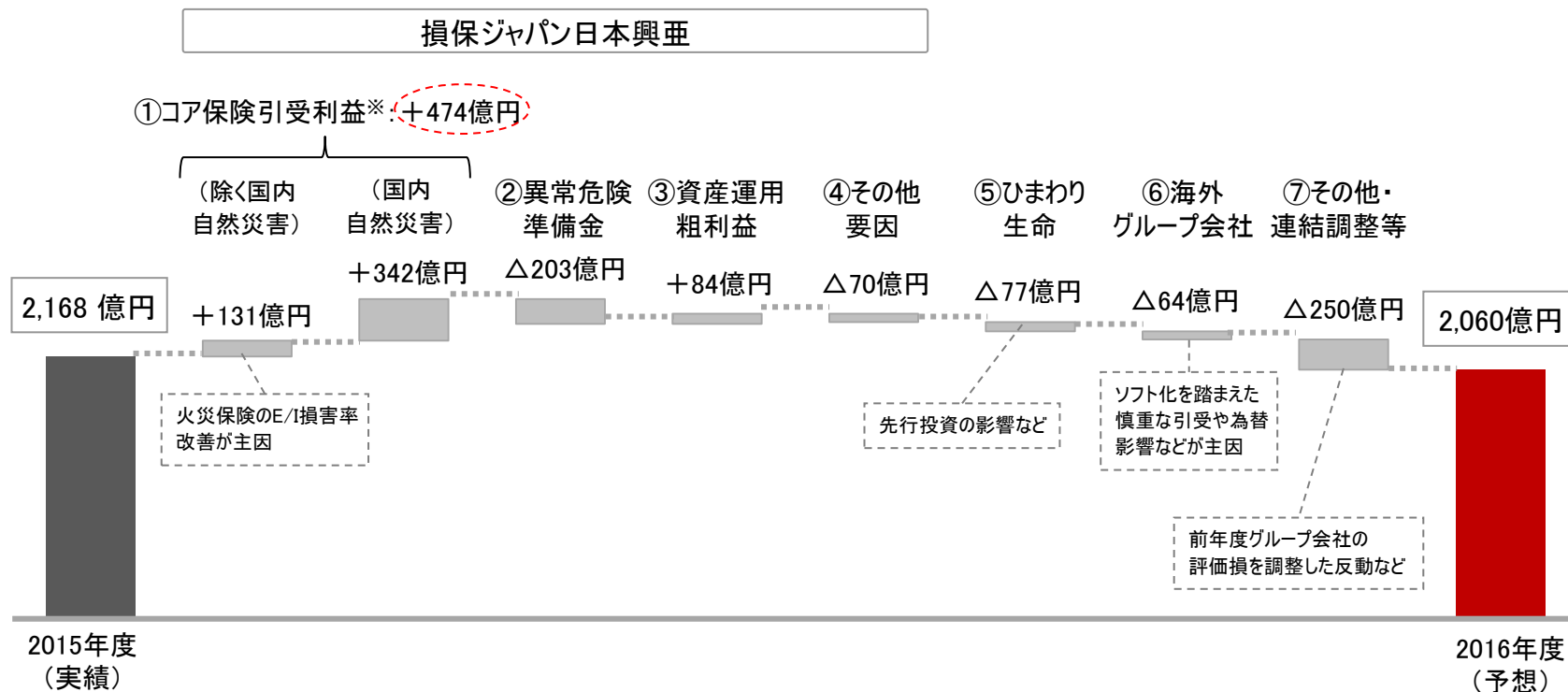
(単位:億円)	2015年度 (実績)	2016年度 (予想)	増減
正味収入保険料	25,521	25,055	△466
生命保険料	2,976	3,095	+118
連結経常利益	2,168	2,060	△108
損保ジャパン日本興亜	1,780	2,065	+284
ひまわり生命	182	105	△77
海外グループ会社	237	172	△64
その他・連結調整等※	△32	△283	△250
連結純利益	1,595	1,400	△195
損保ジャパン日本興亜	1,262	1,470	+207
ひまわり生命	116	65	△51
海外グループ会社	205	135	△69
その他・連結調整等※	11	△270	△281

※ SOMPOホールディングスの設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。

HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(損保ジャパン日本興亜等の単体上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要がある、この修正を上記「連結調整」に含めている。

(参考) 通期業績予想(連結経常利益)のブレイクダウン

連結経常利益の主要構成要素



	①コア保険引受利益	②異常危険準備金	③資産運用粗利益	④その他要因	⑤ひまわり生命	⑥海外グループ会社	⑦その他・連結調整等	連結経常利益
2015年度実績	757億円	25億円	1,085億円	$\Delta 87$ 億円	182億円	237億円	$\Delta 32$ 億円	2,168億円
2016年度業績予想	1,231億円	$\Delta 178$ 億円	1,169億円	$\Delta 157$ 億円	105億円	172億円	$\Delta 283$ 億円	2,060億円

※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

(参考) 経営数値目標等

計画数値(修正利益)

(単位: 億円)	2015年度	2016年度		2018年度
	(実績)	(3Q実績)	(予想)	(計画)
国内損保事業※1	1,119	978	1,140以上	1,200以上
国内生保事業	304	222	230以上	320以上
介護・ヘルスケア事業等	15	△9	△20以上	80以上
海外保険事業	204	138	150以上	600以上
合計(修正連結利益)	1,643	1,329	1,500~1,600	2,200~2,300
修正連結ROE※2	6.9%	—	6.6%	8%以上
(参考) ROE (J-GAAPベース)	9.2%	—	8.7%	約10%相当

修正連結利益の定義

国内損保事業

当期純利益
 + 異常危険準備金繰入額(税引後)
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)
 - 有価証券の売却損益・評価損(税引後)
 - 特殊要因(子会社配当など)

国内生保事業

当期純利益
 + 危険準備金繰入額(税引後)
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)
 + 責任準備金補正(税引後)
 + 新契約費繰延(税引後)
 - 新契約費償却(税引後)

介護・ヘルスケア事業等

当期純利益

海外保険事業

当期純利益(主な非連結子会社含む)

※1 国内損保事業は損保ジャパン日本興亜、セゾン自動車火災、そんぽ24、損保ジャパン日本興亜保険サービス、DC証券の合計

※2 修正連結ROE=修正連結利益÷修正連結純資産(分母は、期首・期末の平均残高)

修正連結純資産=連結純資産(除く国内生保事業純資産)+国内損保事業異常危険準備金(税引後)+国内損保事業価格変動準備金(税引後)+国内生保事業修正純資産
 国内生保事業修正純資産=国内生保事業純資産(J-GAAP)+危険準備金(税引後)+価格変動準備金(税引後)+責任準備金補正(税引後)+未償却新契約費(税引後)

1. 業績動向

2. 事業別概況

2-1. 国内損保事業

2-2. 国内生保事業

2-3. 介護・ヘルスケア事業等

2-4. 海外保険事業

3. ERM・資産運用

2016年度第3四半期決算概況(損保ジャパン日本興亜)

◆ 保険引受利益はE/I損害率の改善などにより大幅増益、当期純利益は1,026億円(415億円増益)

(単位:億円)	2015年度 第3四半期	2016年度 第3四半期	増減	
正味収入保険料	16,859	16,188	△671 (△4.0%)	
(除く自賠責・家計地震)	14,516	13,988	△528 (△3.6%)	→ 前年度の火災保険商品 改定に伴う駆け込み需要の 反動などが主因
正味損害率	62.9%	63.2%	+0.2pt	
(除く自賠責・家計地震)	60.2%	59.3%	△0.9pt	
E/I損害率(除く自賠責・家計地震)	62.8%	59.1%	△3.7pt	→ 火災保険中心に改善
正味事業費率	31.6%	31.9%	+0.3pt	
(除く自賠責・家計地震)	33.4%	33.7%	+0.3pt	
コンバインド・レシオ	94.5%	95.1%	+0.6pt	
(除く自賠責・家計地震)	93.5%	92.9%	△0.6pt	
保険引受利益	298	858	+560	
資産運用粗利益	684	792	+108	→ 政策株式の売却が進展
経常利益	886	1,508	+621	
当期純利益	611	1,026	+415	
(参考)				
修正利益				
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	77	159	+82	
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	44	43	△0	
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	47	286	+238	
-) 特殊要因(税引後)※	△45	△57	△12	
修正利益	731	1,001	+270	

※ 特殊要因は株式先物関連損益等

正味収入保険料

◆ 火災保険の前年度商品改定影響はあるが、主力の自動車保険や新種保険で増収

種目別正味収入保険料

(単位: 億円)	2015年度 第3四半期	2016年度 第3四半期	増減	2016年度 (予想)
火災	2,579	2,045	△534 (△20.7%)	2,815
海上	392	327	△65 (△16.7%)	455
傷害	1,419	1,395	△24 (△1.7%)	1,823
自動車	7,991	8,057	+65 (+0.8%)	10,725
自賠責	2,335	2,192	△142 (△6.1%)	3,012
その他	2,140	2,170	+29 (+1.4%)	2,813
うち賠償責任	1,227	1,206	△20 (△1.7%)	1,548
合計	16,859	16,188	△671 (△4.0%)	21,645
合計(除く自賠責・家計地震)	14,516	13,988	△528 (△3.6%)	18,623

(参考) 自動車保険の台数・単価・保険料
対前年同期比(2016年4月～2016年12月)

	損保ジャパン日本興亜		
	台数	単価	保険料
ノンフリート	△0.4%	+0.7%	+0.3%
フリート	+0.3%	+0.4%	+0.7%
合計	△0.3%	+0.7%	+0.4%

※営業成績保険料ベース

(主な増減要因)

火災：2015年10月商品改定(10年超の長期契約廃止、料率改定)による駆け込み需要の反動などの影響

海上：期中の円高や貿易量減少などが主因

自動車：商品・料率改定効果および単価アップ施策により増収

その他：中小企業向けパッケージ商品の販売が好調

正味損害率(リトン・ペイド)

- ◆ 全種目で支払保険金は減少、除く自賠責・家計地震ベースの正味損害率が改善
- ◆ 国内自然災害が限定的であったため、E/I損害率は火災保険を中心に大きく改善(△3.7ポイント)

種目別正味損害率

2016年度第3四半期

(単位:億円)

	保険金	増減	損害率	増減
火災	1,476	△257	74.0%	+5.5pt
海上	196	△28	63.4%	+2.8pt
傷害	708	△47	55.1%	△2.4pt
自動車	4,157	△45	59.2%	△0.8pt
自賠責	1,711	△11	84.9%	+4.7pt
その他	1,023	△15	50.6%	△1.4pt
うち賠償責任	549	△17	49.3%	△0.7pt
合計	9,273	△406	63.2%	+0.2pt
合計(除く自賠責・家計地震)	7,488	△469	59.3%	△0.9pt
合計(除く自賠責・家計地震・国内自然災害)	6,978	△162	55.6%	+1.0pt

(参考)E/I損害率

2016年度第3四半期

	E/I損害率	増減
火災(除く家計地震)	58.0%	△17.3pt
海上	54.9%	△17.0pt
傷害	58.0%	△2.4pt
自動車	60.3%	+0.3pt
その他	57.5%	△1.8pt
合計(除く自賠責・家計地震)	59.1%	△3.7pt

正味事業費率

◆ 社費を中心に事業費は計画どおりコントロール

正味事業費率

2016年度第3四半期

(単位:億円)	金額	増減	事業費率	増減
諸手数料及び集金費	2,890	△147	17.9%	△0.2pt
営業費及び一般管理費※	2,279	△10	14.1%	+0.5pt
合計	5,170	△158	31.9%	+0.3pt
合計(除く自賠責・家計地震)	4,712	△129	33.7%	+0.3pt
合計(除く自賠責・家計地震・先行投資)	4,666	△175	33.4%	+0.0pt

※ 保険引受に係るもの(社費)、うち先行投資は45億円

→ 社費率

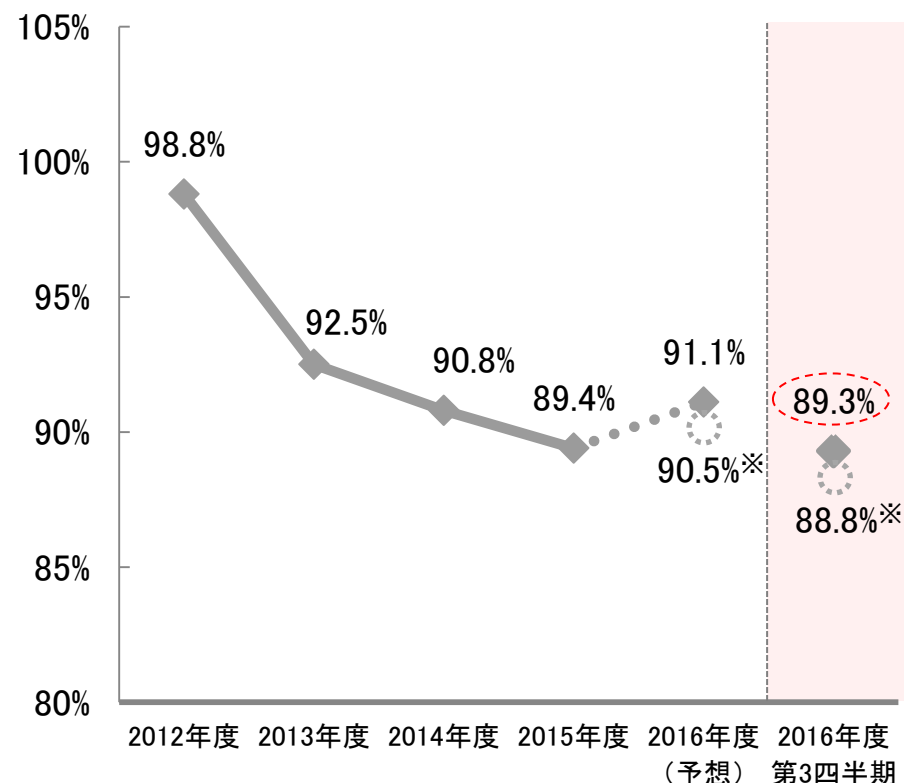
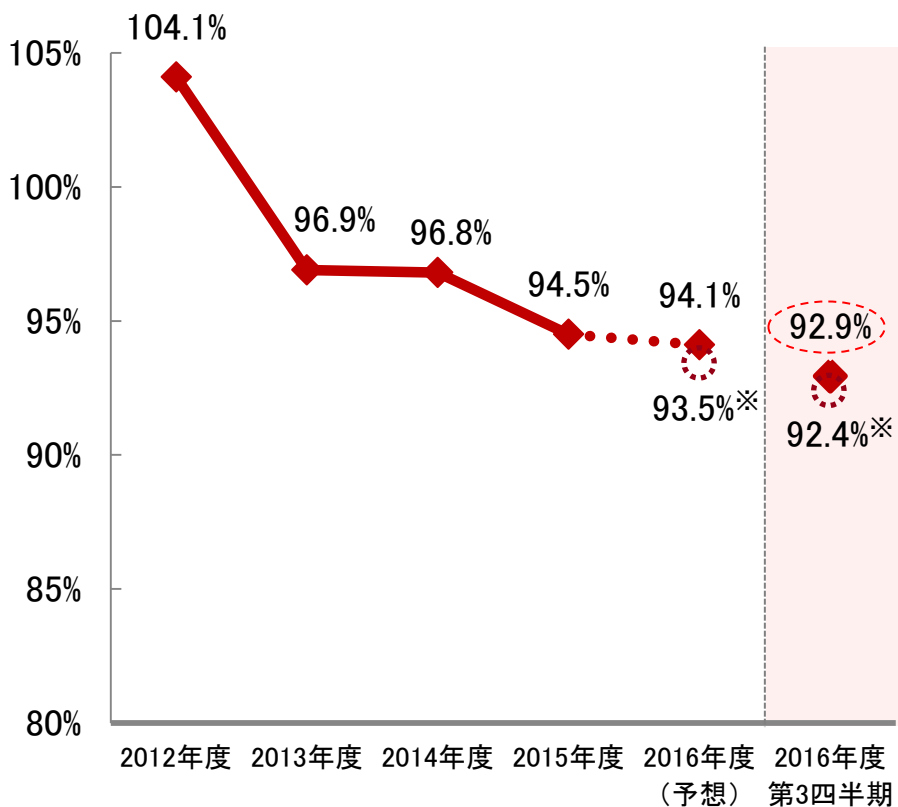
2016年度第3四半期				
(単位:億円)	金額	増減	社費率	増減
人件費	1,076	△16	6.6%	+0.2pt
物件費	1,099	+6	6.8%	+0.3pt
税金等	103	△0	0.6%	+0.0pt
合計	2,279	△10	14.1%	+0.5pt
合計(除く先行投資)	2,233	△56	13.8%	+0.2pt

コンバインド・レシオ

◆ 正味損害率(除く自賠責・家計地震)の改善、事業費の適切なコントロールなどにより、良好に推移

コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)

<参考> 除く自賠責・家計地震・自然災害



※除く先行投資

資産運用損益

◆ 資産運用粗利益は通期業績予想対比で堅調、政策株式も順調に削減

資産運用粗利益(損保ジャパン日本興亜単体)

(単位:億円)		2015年度 第3四半期	2016年度 第3四半期	増減	2016年度 (予想)
ネット利息及び配当金収入 ①		512	487	△25	631
利息及び配当金収入※1		846	822	△24	1,053
有価証券売却損益※1 ②		268	405	+136	679
(うち国内株式)		193	365	+172	619
有価証券評価損※1 ③		△202	△7	+195	△21
(うち国内株式)		△177	△5	+171	△20
金融派生商品損益 ④		△8	△160	△151	△23
その他損益 ⑤		113	67	△46	△97
資産運用粗利益 (①~⑤計)		684	792	+108	1,169

※1 内訳は次ページ参照

対通期業績予想進捗率: 78%

(参考) 政策株式削減額

現物※2	561億円
先物※3	331億円
合計	893億円

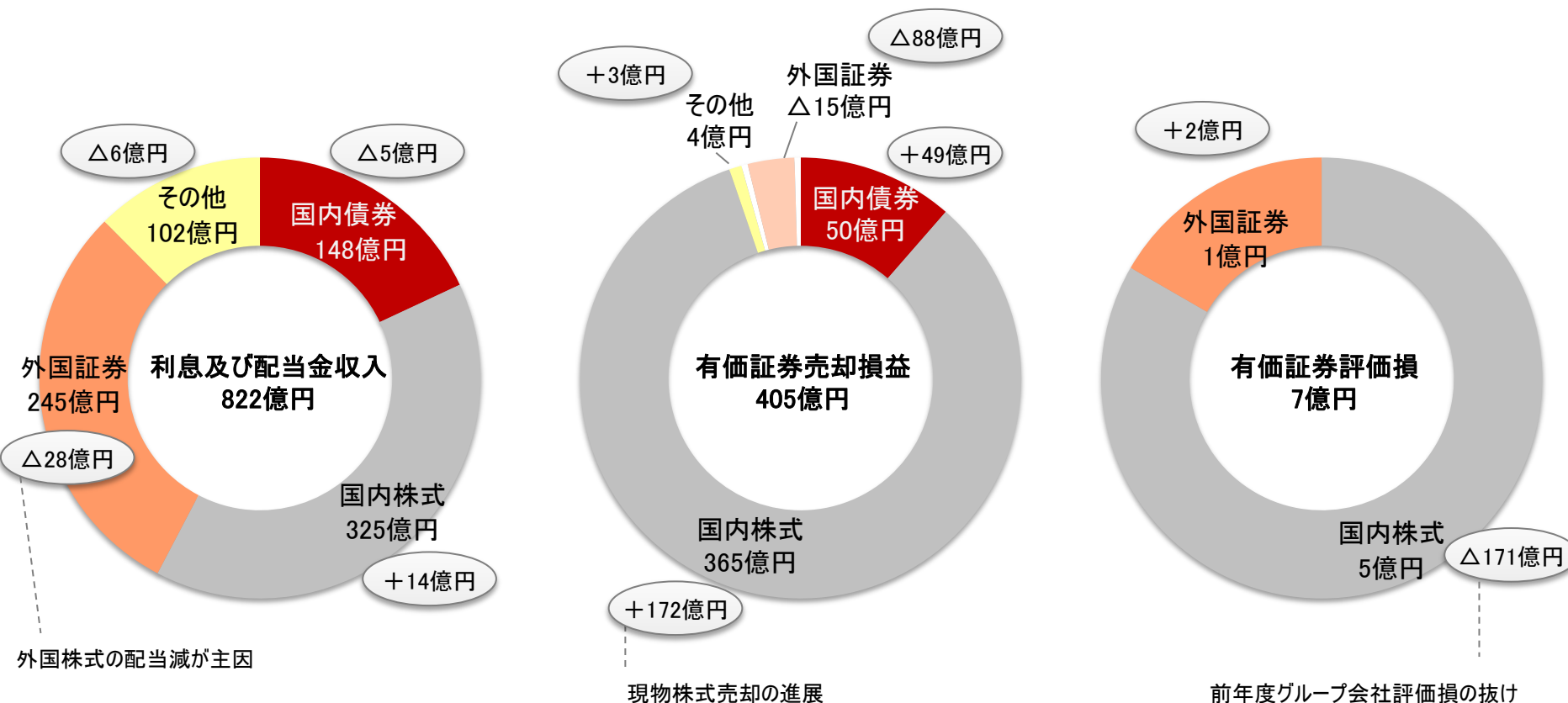
※2 時価ベースのネット削減額
(売却時価-購入時価)

※3 日経平均先物の売建て

主に株式先物ヘッジ(売却益と相殺)
および為替予約に伴う損益

(参考) 資産運用粗利益の内訳

利息及び配当金収入・有価証券売却損益・有価証券評価損の内訳(2016年度第3四半期)



○ : 2015年度第3四半期対比の増減額

(参考) 2016年度通期業績予想(損保ジャパン日本興亜)

(単位:億円)	2015年度 (実績)	2016年度 (予想)	増減
正味収入保険料	22,184	21,645	△538 (△2.4%)
(除く自賠責・家計地震)	19,108	18,623	△485 (△2.5%)
正味損害率	63.7%	63.1%	△0.6pt
(除く自賠責・家計地震)	61.1%	60.0%	△1.1pt
E/I損害率(除く自賠責・家計地震)	61.6%	58.6%	△3.1pt
正味事業費率	31.6%	32.3%	+0.7pt
(除く自賠責・家計地震)	33.4%	34.1%	+0.7pt
コンバインド・レシオ	95.3%	95.4%	+0.1pt
(除く自賠責・家計地震)	94.5%	94.1%	△0.4pt
保険引受利益	782	1,053	+270 (+34.5%)
資産運用粗利益	1,085	1,169	+84 (+7.8%)
経常利益	1,780	2,065	+284 (+16.0%)
当期純利益	1,262	1,470	+207 (+16.4%)
(参考) 修正利益			
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	△17	128	+146
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	57	71	+14
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	226	472	+246
-) 特殊要因(税引後)※	△85	—	+85
修正利益	1,161	1,197	+35 (+3.1%)

※ 特殊要因は法人税減税影響など

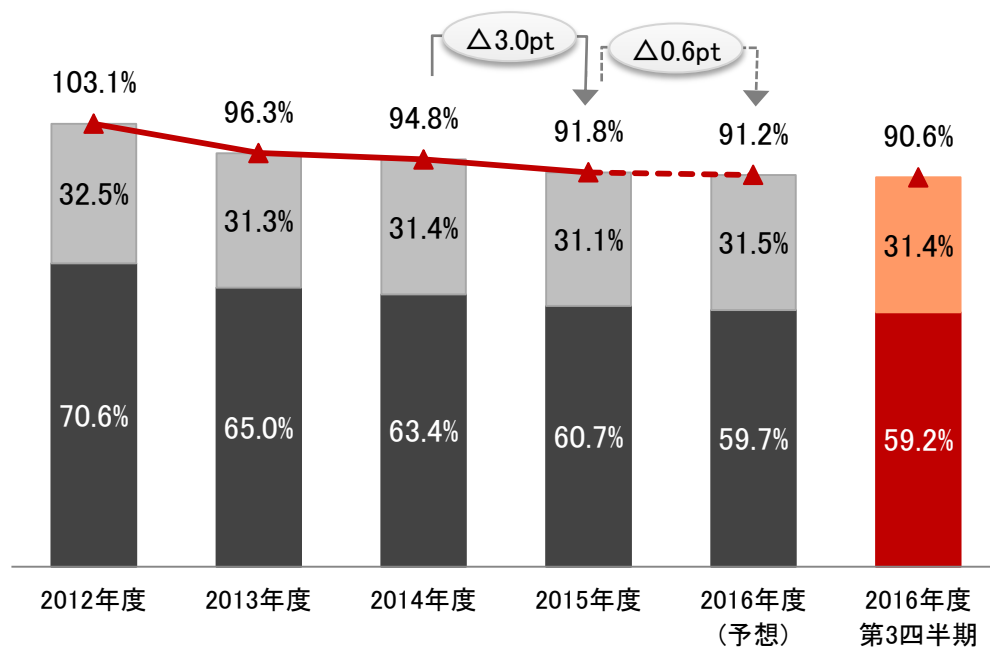
(参考) 通期業績予想の前提(損保ジャパン日本興亜)

国内自然災害(当年度発生)	430億円 ※このほか熊本地震等で70億円
異常危険準備金	178億円の積み増し(ネット)
異常危険準備金繰入率	火災グループ繰入率 火災:14.0%、火災以外:5.0% 自動車グループの繰入率:3.2%
資産運用	<株価> 日経平均:16,449円 <金利> 10年物日本国債:△0.09% <為替> ドル円:101.12円、ユーロ円:113.36円 ※マーケットの前提は2016年9月末の水準を想定
利息及び配当金収入	グロス:1,053億円 ネット:631億円
有価証券キャピタル損益	有価証券売却損益:679億円 有価証券評価損:21億円
価格変動準備金	100億円の繰入れ(ネット)

(参考) 自動車保険関連の指標

コンバインド・レシオの推移

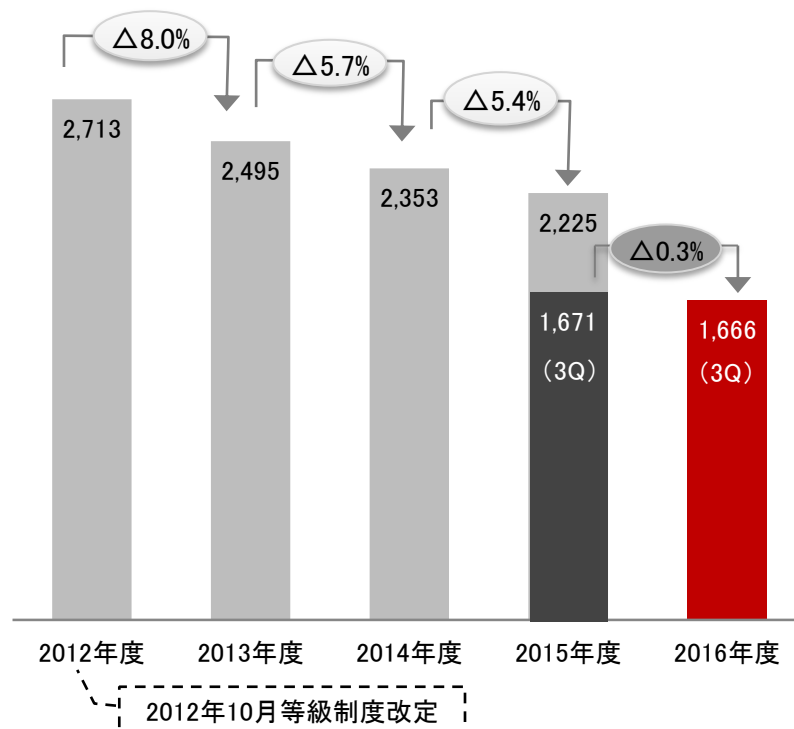
■ 損害率 ■ 事業費率 ▲ コンバインド・レシオ



※ 損害率はW/Pベース(含む損調費)

事故受付件数の推移

(千件)



※ 発生損害が一定額を超過した自然災害に係る件数を除く

(参考)国内自然災害

国内自然災害(当年度発生)に係る正味支払保険金(除く自賠責・家計地震)

(単位:億円)	2015年度 第3四半期	2016年度 第3四半期	増減
火災	566	296	△269
海上	-	0	+0
傷害	0	0	△0
自動車	50	30	△20
その他	11	15	+3
合計	628	342	△286

主な自然災害に対する正味支払保険金

- ・熊本地震(2016年4月):49億円
- ・台風 9号(2016年8月):69億円
- ・台風10号(2016年8月):43億円
- ・台風16号(2016年9月):81億円

※ 第3四半期決算では支払備金を簡便法で算出しているため、国内自然災害に係る発生損害額を集計していない

(参考) 責任準備金・支払備金

責任準備金・支払備金(2016年度第3四半期末)

(単位:億円)	普通責任準備金※ ¹		異常危険準備金		支払備金※ ²	
	残高	積増額	残高	積増額	残高	積増額
火災※ ³	7,451	△322	1,749	△26	1,129	△110
海上	153	△39	483	+13	278	△22
傷害	1,260	+40	729	+23	702	+16
自動車	3,069	△9	750	+116	4,142	+88
自賠責※ ³	4,160	+5	—	—	852	△38
その他	3,177	+93	1,991	+94	2,040	+82
合計	19,273	△232	5,705	+222	9,146	+17
合計(除く自賠責・家計地震)	15,025	△171	5,705	+222	8,294	+55

	残高	積増額
長期性資産※ ⁴	14,730	△412

※¹ 積立保険以外に係る払戻積立金を含む

※² 第3四半期では簡便法を適用

※³ 地震保険および自賠責保険に係る責任準備金は普通責任準備金に含む

※⁴ 払戻積立金と契約者配当金として積み立てられている積立保険の収入積立保険料とその運用益の累積残

業績概況(ひまわり生命)

◆ 保障性商品の保有が継続拡大、当期純利益は81億円と通期業績予想(65億円)に対し順調

主要業績

(単位:億円)	2015年度 第3四半期	2016年度 第3四半期	増減		2016年度 (予想)
新契約年換算保険料	299	329	+30	(+10.0%)	405
保険料等収入	2,897	3,046	+148	(+5.1%)	4,084
(除く一時払保険料)	2,870	3,045	+175	(+6.1%)	4,084
資産運用損益(一般勘定)	310	320	+10	(+3.2%)	430
事業費	682	738	+56	(+8.2%)	1,065
経常利益	186	157	△29	(△15.7%)	148
当期純利益	101	81	△20	(△19.9%)	65

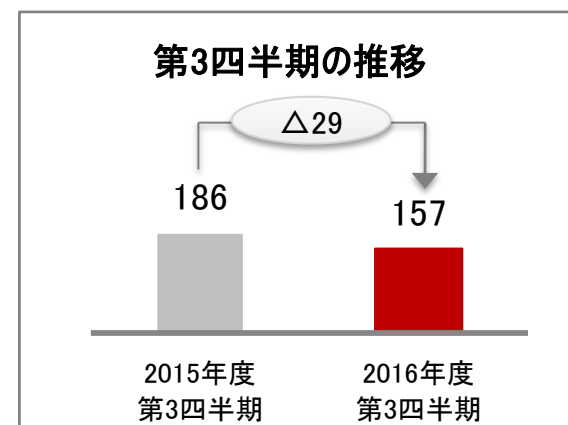
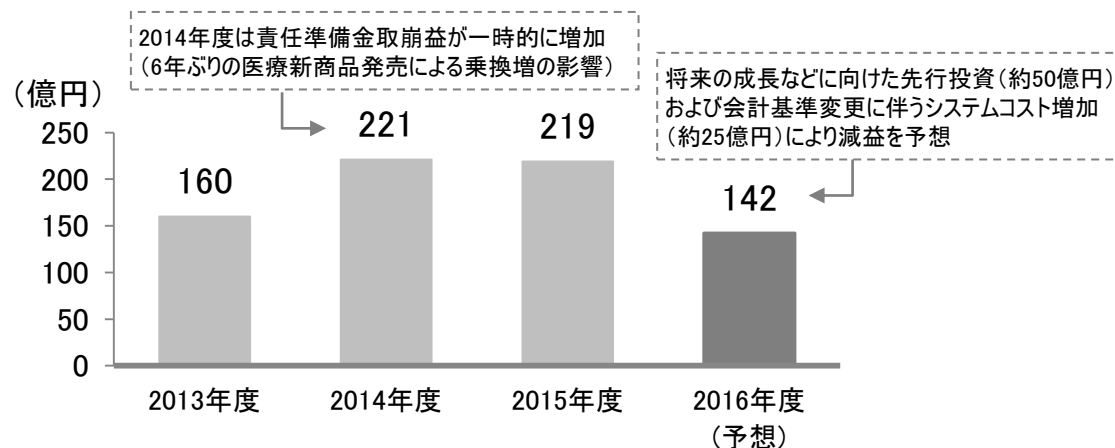
(単位:億円)	2015年度末	2016年度 第3四半期末	増減	
保有契約高	216,421	219,919	+3,498	
保有契約年換算保険料	3,328	3,469	+140 (うち保障性商品+55億円)	

※ 個人保険と個人年金保険の合計

会計利益の推移

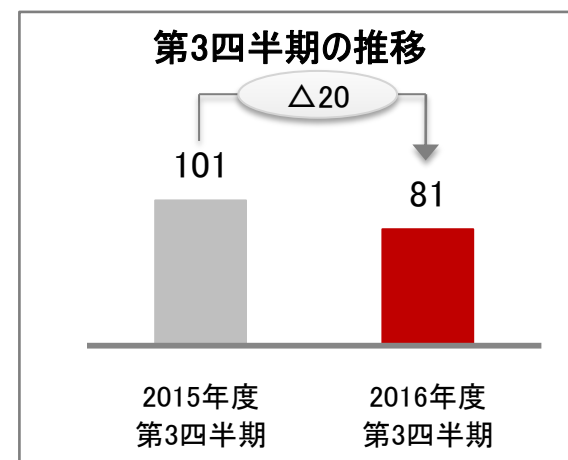
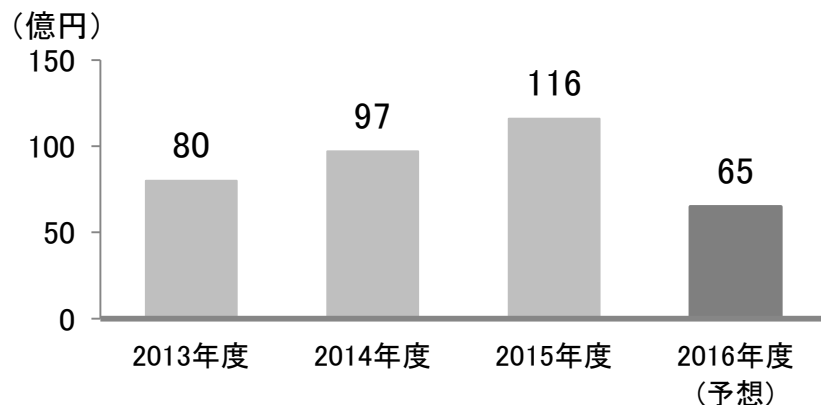
◆ 2016年度第3四半期のボトムラインは業績予想対比で順調

基礎利益※



※ 経常利益から有価証券の売却損益などのキャピタル損益と危険準備金繰入などの臨時損益を控除したもので、一般事業会社の営業利益や銀行の業務純益に近い

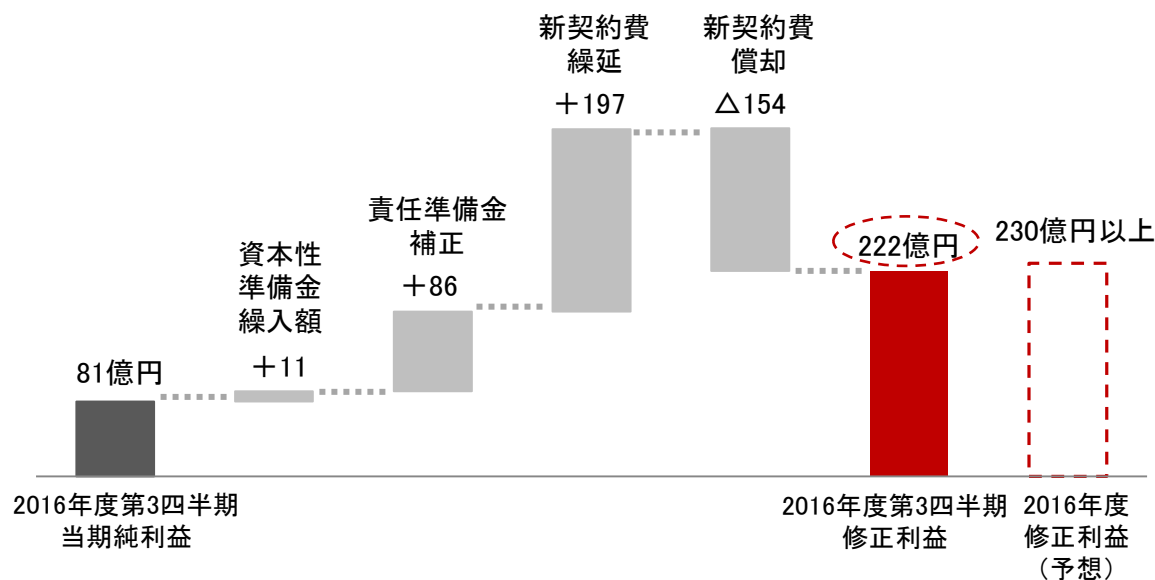
当期純利益



修正利益・修正純資産(ひまわり生命)

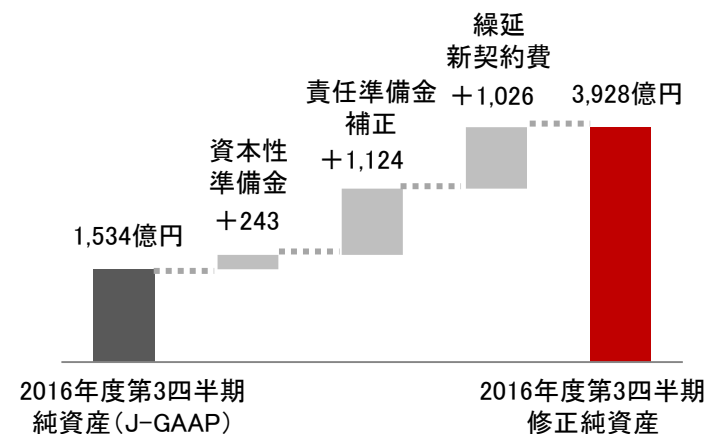
◆ 修正利益の進捗率(通期業績予想対比)は97%

当期純利益から修正利益へのコンバージョン



(参考) 修正利益 = 当期純利益 + 資本性準備金繰入額^{※1}
 + 責任準備金補正^{※2}
 + 新契約費繰延^{※3}
 - 新契約費償却^{※3}

(参考)修正純資産



(参考) 修正純資産 = 純資産 + 資本性準備金^{※1}
 + 責任準備金補正^{※2}
 + 繰延新契約費未償却分^{※3}

※1 危険準備金、価格変動準備金(税引後)

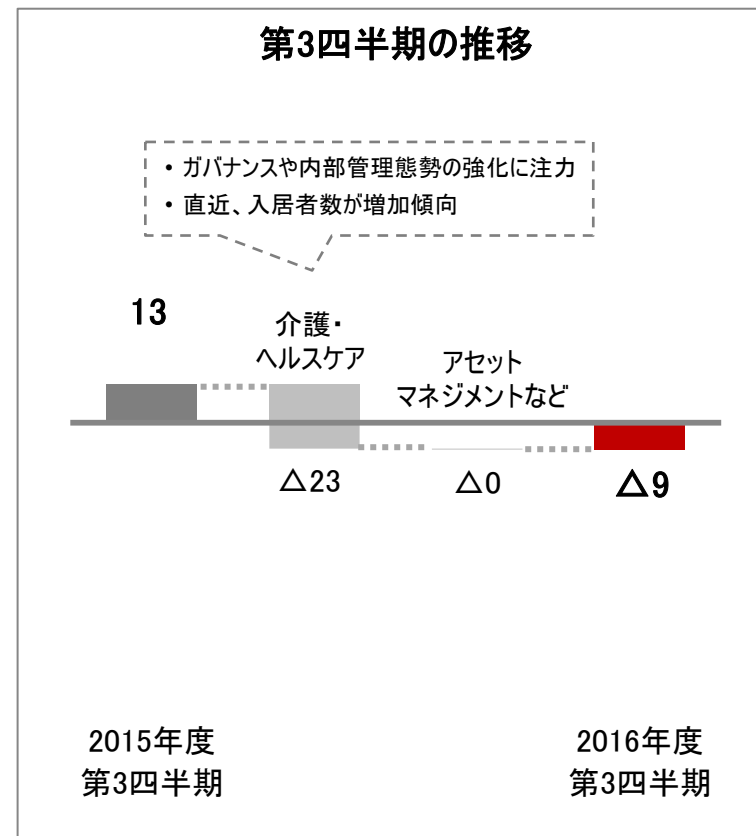
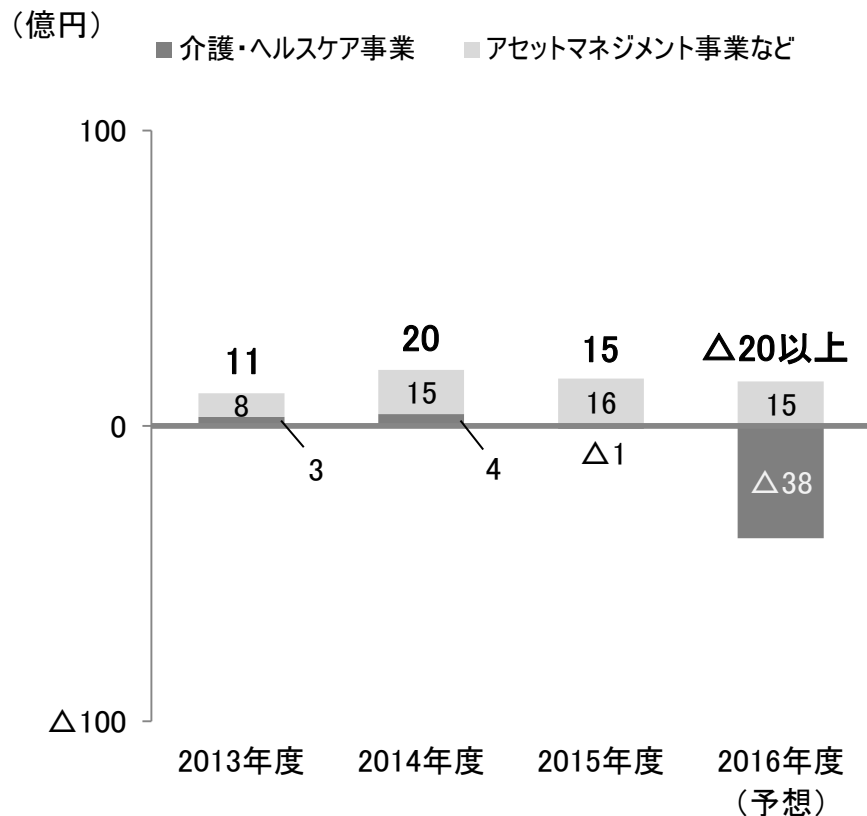
※2 保守的に計算している責任準備金を保険料計算に用いる基礎率により再計算(税引後)

※3 契約初年度に発生する募集手数料等の新契約費を10年間で償却(税引後)

業績概況(介護・ヘルスケア事業等)

◆ 一定のコストをかけつつ介護事業の内部管理態勢・収益力を強化

当期純利益の推移



※ 介護・ヘルスケア事業はSOMPOケアメッセージ、SOMPOケアネクスト、シダー(非連結)、SOMPOリスクアマネジメントの合計

SOMPOケア(介護事業)主要業績

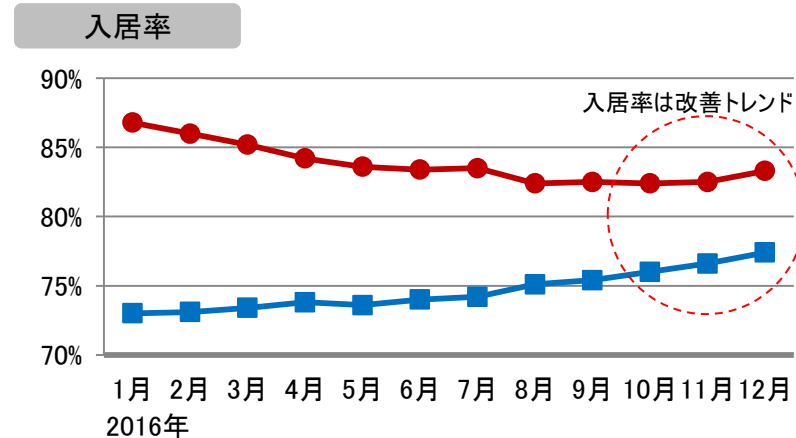
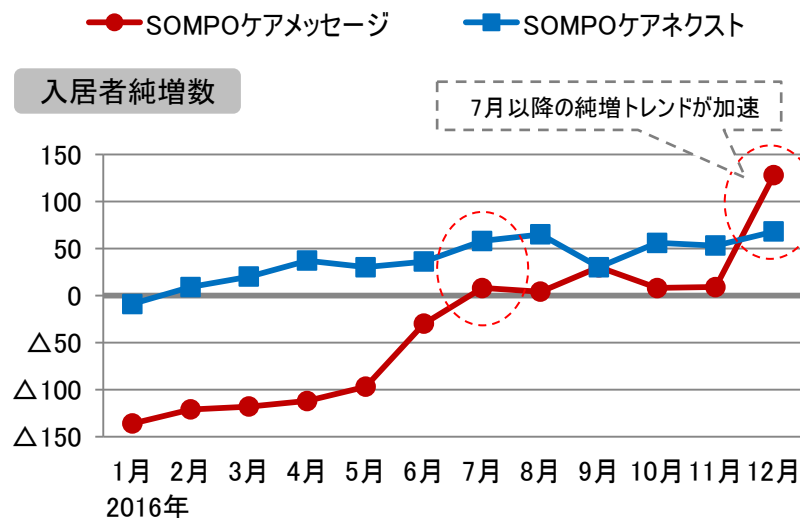
◆ 新規入居者の増加により、KPIである入居率は上昇トレンド

主要業績

(単位:億円)	2016年度 第3四半期	増減	2016年度 (予想)
売上高	834	△30	1,116
(SOMPOケアメッセージ)	555	△43	739
(SOMPOケアネクスト)	278	+13	377
入居率 (そんぼの家)	84.6%	△4.4%	86.0%
(そんぼの家S)	81.7%	△4.2%	81.3%
(ラヴィーレ)	77.4%	+4.2%	80.2%

※ そんぼの家はSOMPOケアメッセージの介護付有料老人ホーム、そんぼの家Sは同社のサービス付き高齢者向け住宅、ラヴィーレはSOMPOケアネクストの介護施設を示すブランド名

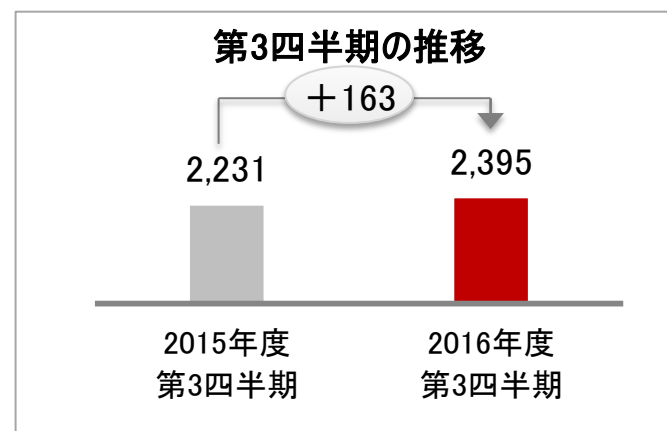
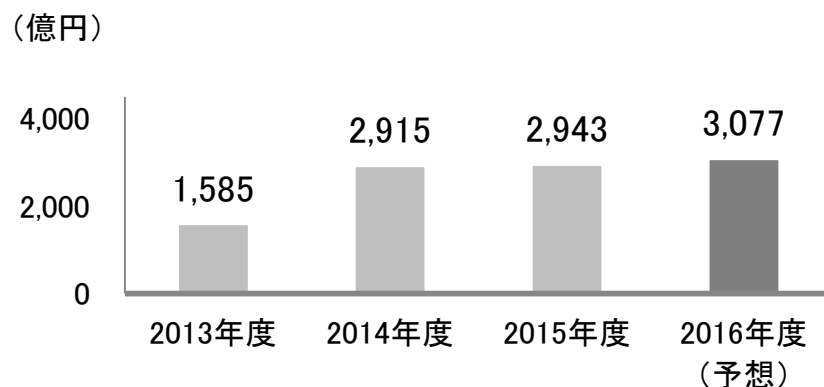
入居者・入居率推移



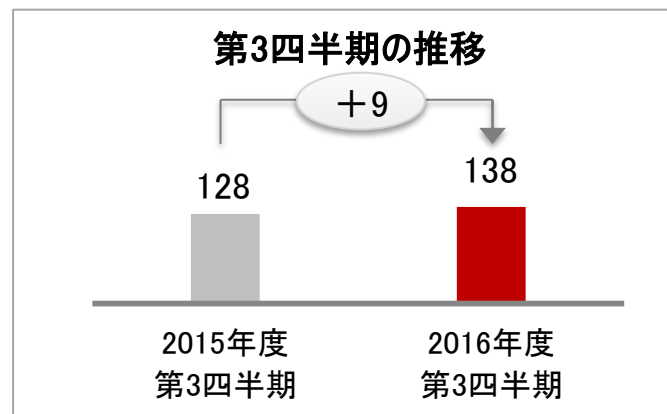
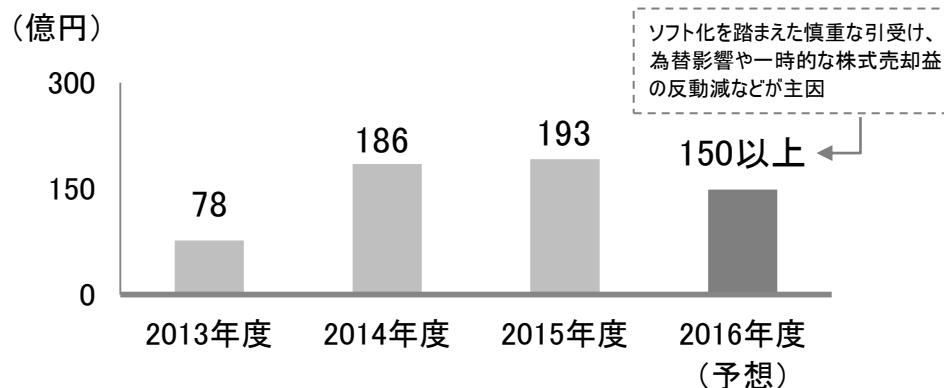
業績概況(海外保険事業)

◆ トップライン、ボトムラインともに計画を上回って推移

収入保険料



当期純利益

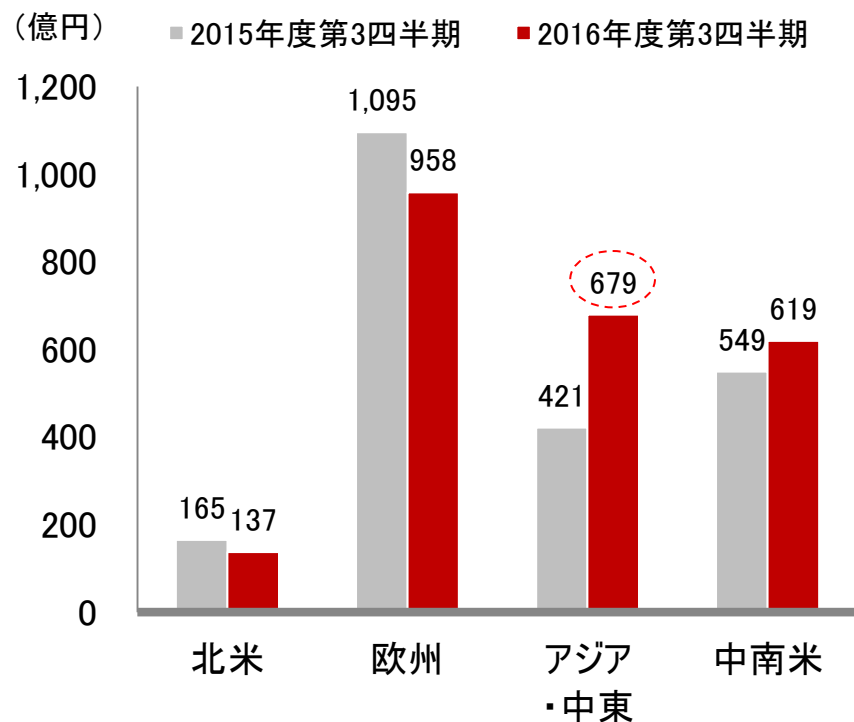


※収入保険料は、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる。当期純利益についても、持分割合の反映などの調整を行っている。
また、2016年度から非連結子会社であるSompoインドネシア、Sompoタイランド、PGAソポ(フィリピン)、ユナイテッドインシュアランス(ベトナム)、Sompoメキシコの数値を合算している(以下同様)。

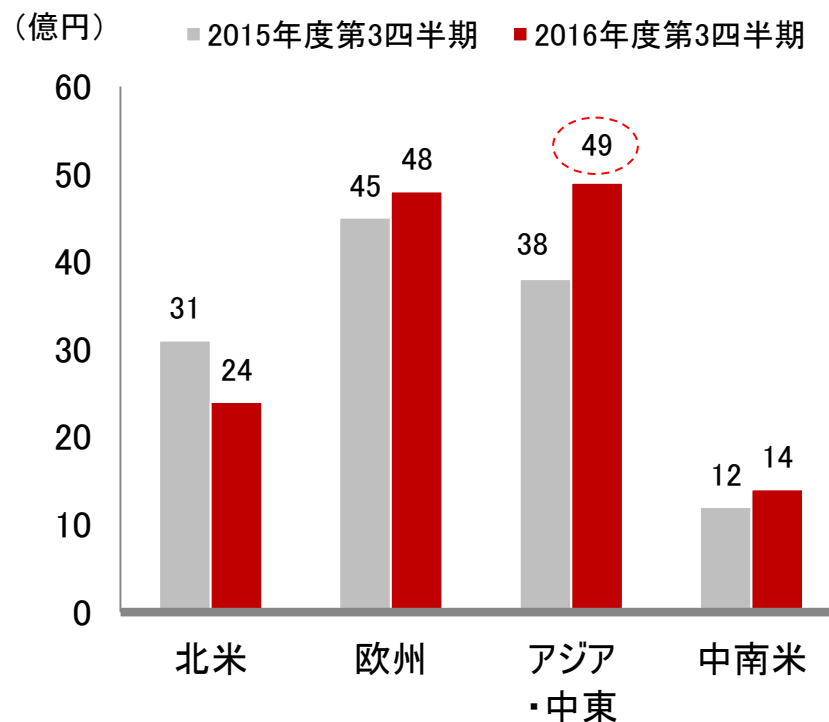
地域別業績

◆ トルコを中心としたアジア・中東地域が成長を牽引

収入保険料(地域別)



当期純利益(地域別)



(参考)グループ会社別業績

(単位:億円)		収入保険料			当期純利益			第3四半期のポイント	(参考)為替レート
		2016年度 第3四半期	増減	2016年度 (予想)	2016年度 第3四半期	増減	2016年度 (予想)		2016年度 第3四半期※2
北米	Sompoアメリカ	137	△27	203	24	△7	15	労災保険を中心に損害率が良好に推移、ボトムラインは計画を上回る進捗	101.12 円/米ドル (△15.7%)
欧州	SJNKヨーロッパ	6	△29	7	6	+3	5	出再カバーを拡充、ボトムラインは支払備金取崩による一時益もあり順調	131.00 円/ポンド (△28.0%)
	Sompoキャンピアス (英国)	951	△108	1,183	42	△0	54	保険引受利益、資産運用とも計画どおり	101.12 円/米ドル (△15.7%)
アジア・ 中東	SJシゴルタ (トルコ)	430	+257	490	25	+13	28	自動車強制保険が大幅増収、損害率も良好で、計画を上回る進捗	33.63 円/リラ (△14.9%)
	Sompo シンガポール	42	△23	57	11	+2	8	良好な損害率によりボトムラインは順調	74.01 円/SGドル (△12.0%)
	ベルジャヤソンポ (マレーシア)	76	+0	106	8	△2	9	損害率が良好に推移	24.46 円/リンギット (△9.1%)
	SJNK中国 NK中国	34	△18	55	△2	△2	△1	減収はアンダーライティング強化が主因	15.14 円/人民元 (△20.1%)
	Sompo香港	24	△8	32	2	△1	4	概ね計画どおり	13.04 円/香港ドル (△15.8%)
	ユニバーサルソンポ (インド)	20	+1	26	1	△0	1	概ね計画どおり	1.72 円/ルピー (△5.5%)
中南米	Sompoセグロス (ブラジル)	616	+67	837	12	△0	18	アンダーライティング適正化効果が発現し損害率は改善傾向	31.02 円/リアル (+5.1%)
上記以外(非連結)※1		53	+53	75	5	+5	6	—	—
合計		2,395	+163	3,077	138	+9	150	—	—

※1 Sompoインドネシア、Sompoタイランド、PGAソンポ(フィリピン)、ユナイテッドインシュアランス(ベトナム)、Sompoメキシコの合計

※2 2016年度第3四半期は2016年9月末の為替を適用(増減は2015年9月末為替との比較)

1. 業績動向

2. 事業別概況

2-1. 国内損保事業

2-2. 国内生保事業

2-3. 介護・ヘルスケア事業等

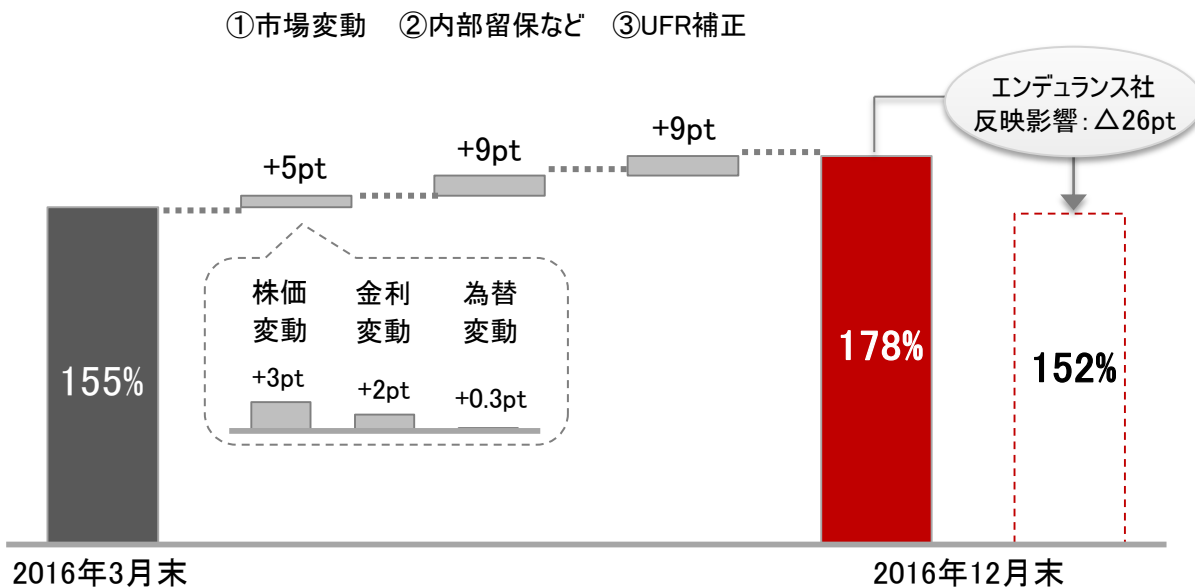
2-4. 海外保険事業

3. ERM・資産運用

財務健全性

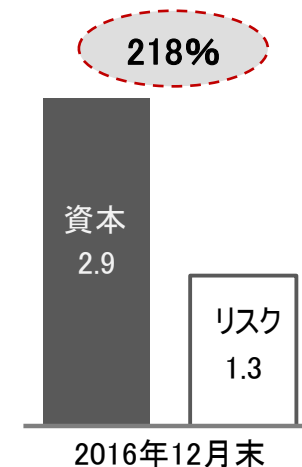
◆ M&A実施後もグループの財務健全性は十分な水準を維持

ESR(99.95%VaR)※の推移



<参考> ESR(99.5%VaR)

ソルベンシー II ベースで算出
(インデュランス社反映後)



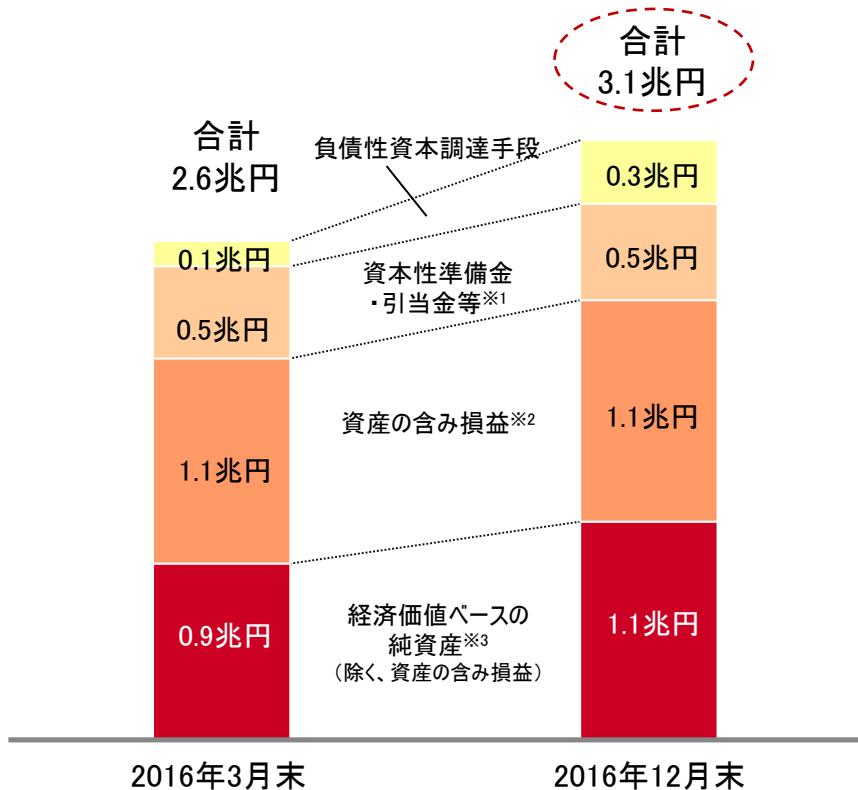
※ ソルベンシー II などの国際的な資本規制に準拠した算出方法
かつ運用はさらに保守的(リスク量の測定に99.95%VaRを使用)
ESR(99.95%VaR)におけるターゲット資本水準は、概ね120%~170%

(参考)市場環境

	2016年3月末	2016年12月末	
国内株価(日経平均株価)	16,758円	19,114円	(+14.1%)
国内金利(30年物国債利回り)	0.56%	0.71%	(+15bp)
為替(米ドル円レート)	112.68円	116.49円	(+3.4%)

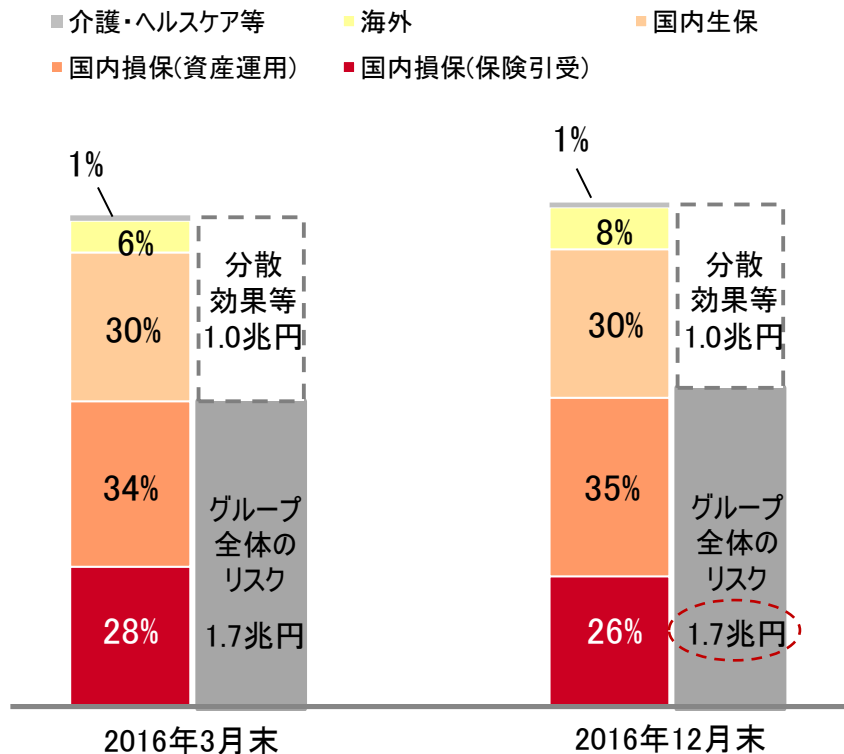
(参考)実質自己資本・リスク量のブレイクダウン

実質自己資本の推移



- ※1 価格変動準備金、異常危険準備金など(税引後)
- ※2 時価評価しない資産(責任準備金対応債券など)を含めた有価証券等の含み損益
- ※3 単体BS純資産合計額に生損保の保有契約価値などを加算

事業毎のリスク量※4推移

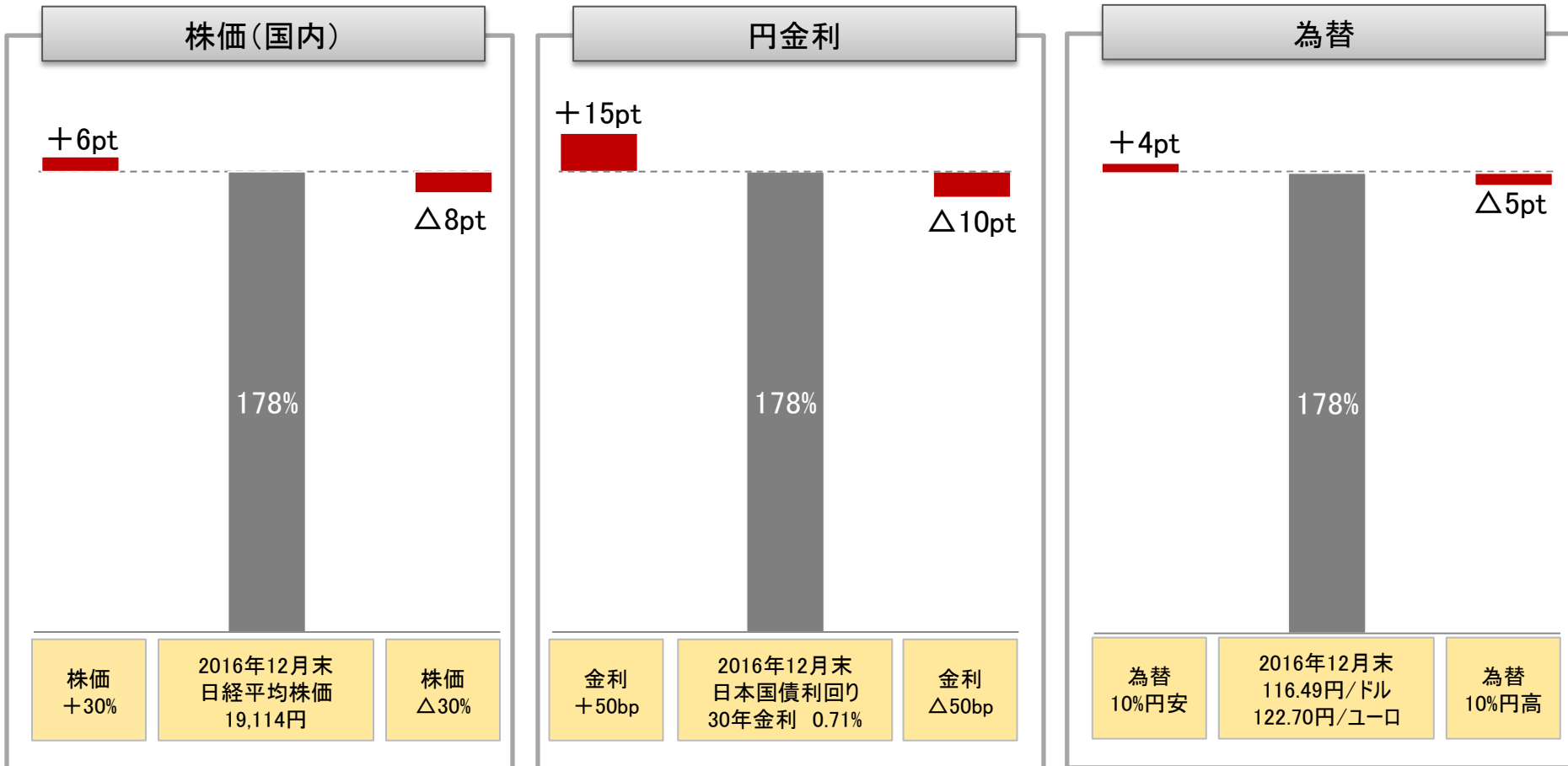


- ※4 リスク量は保有期間1年、99.95%VaR(AA格に相当する信頼水準)で計測
- ・事業毎のリスク量: 事業間のリスク分散効果控除前、税引前ベース
- ・グループ全体のリスク: 事業毎のリスク量合計から、分散効果や税影響を控除

(参考) 市場変動に対する感応度

ESR(99.95% VaR)の市場感応度

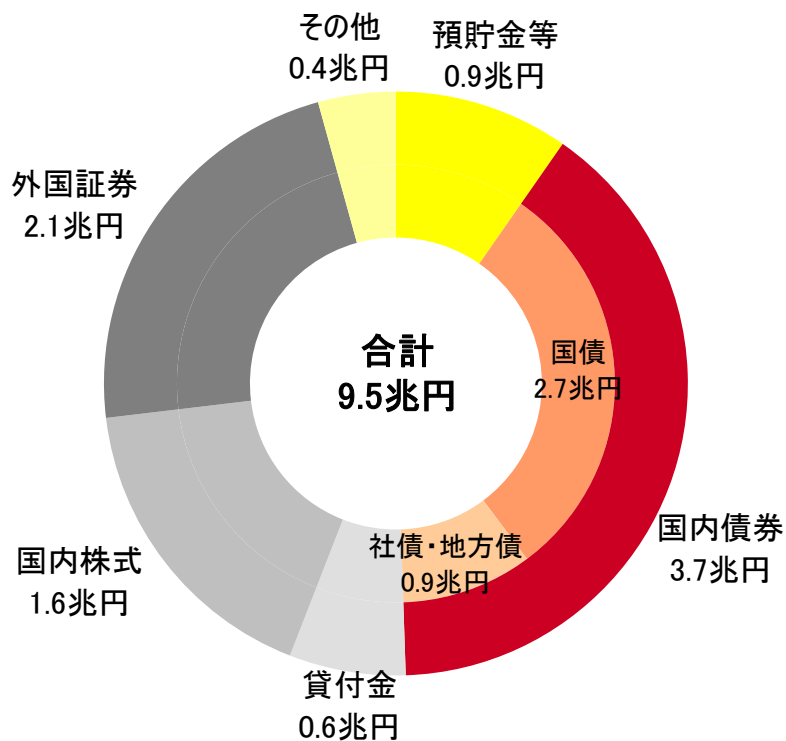
■ : ESR(99.95% VaR) ■ : 想定変化幅



資産ポートフォリオ(グループベース)

◆ 負債特性、流動性に留意したALMを徹底、国内株式は着実に削減する方針に変更なし

資産運用額(2016年12月末 グループ連結ベース)



※ “その他”は土地・建物、非連結子会社株式など

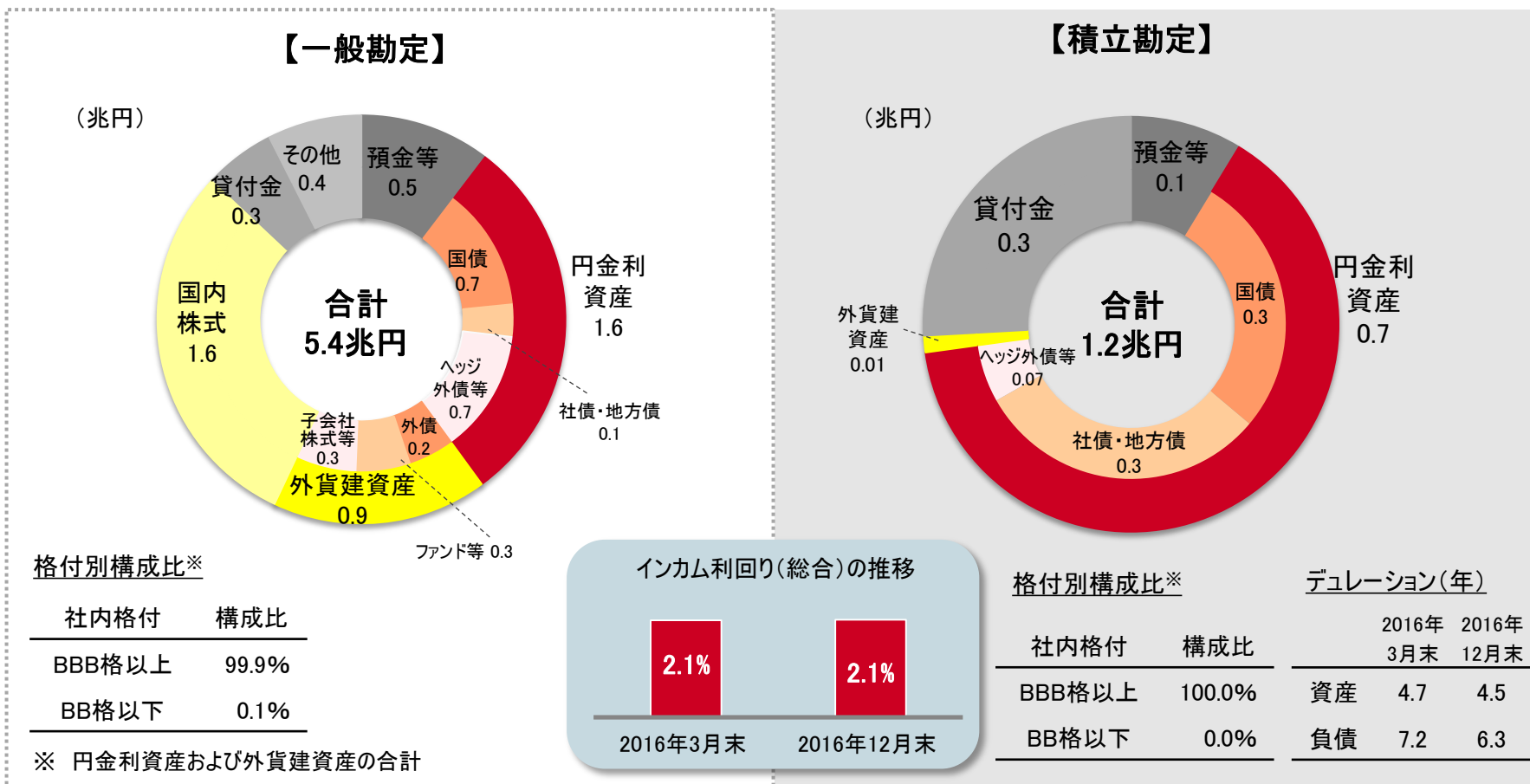
グループ会社別資産運用額(億円)

	資産運用額	構成比
損保ジャパン日本興亜	63,295	66.4%
ひまわり生命	24,954	26.2%
海外グループ会社	5,836	6.1%
セゾン自動車火災	399	0.4%
そんぽ24	217	0.2%
国内その他	615	0.6%
合計	95,319	100.0%

資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜)

- ◆ 一般勘定は分散投資、積立勘定はALMを基本とするポートフォリオマネジメントを継続
- ◆ 金利低下などを踏まえ、運用手法の多様化を目指す

資産運用額(2016年12月末 損保ジャパン日本興亜単体ベース)

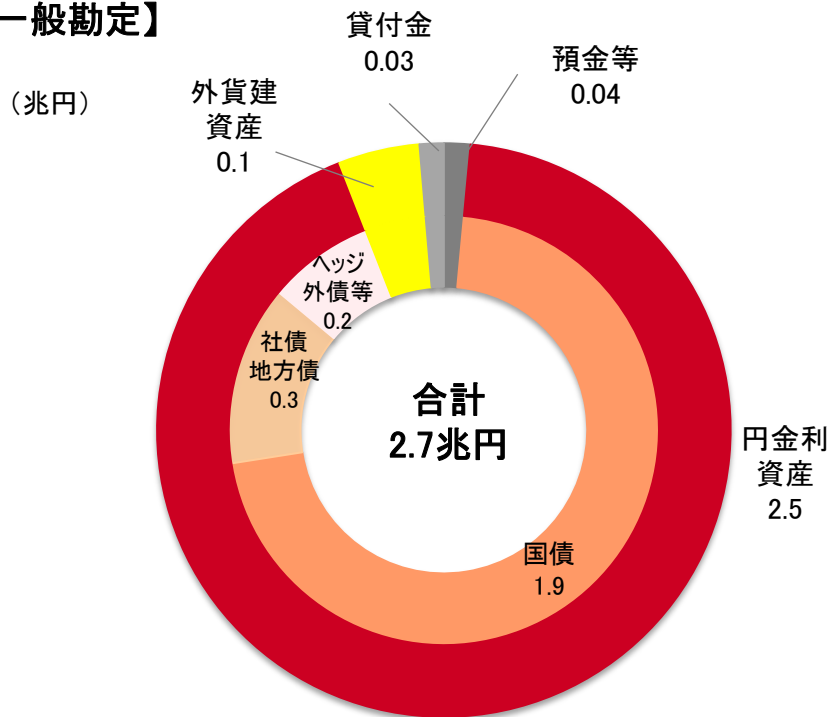


資産ポートフォリオ(ひまわり生命)

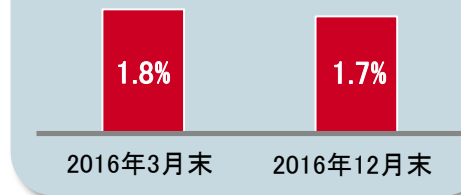
- ◆ 円金利資産を中心としたALM重視のポートフォリオを構築
- ◆ 金利低下の常態化なども想定し、外貨建資産への資産配分を継続

資産運用額(2016年12月末 ひまわり生命単体ベース)

【一般勘定】



インカム利回り(一般)の推移



格付別構成比※

社内格付	構成比
BBB格以上	99.8%
BB格以下	0.2%

デュレーション(年)

	2016年 3月末	2016年 12月末
資産	14	14
負債	23	20

※円金利資産、外貨建資産の合計

(参考)特別勘定の残高(2016年12月末): 221億円
主に国内株式・債券で運用

将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】



SOMPOホールディングス株式会社

経営企画部 IRチーム

電話番号 : 03-3349-3913

Fax : 03-3349-6545

E-Mail : ir@sompo-hd.com

Web : <http://www.sompo-hd.com/>